

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和7年度第3回）議事要旨

- 1 日 時 令和8年1月22日（木）15：10～16：28
- 2 開催方法 オンライン
※奈良会場を設置
（奈良会場）奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 後藤、浅見、上野、長谷川、藤沢、小谷、出村、笠原、上久保、種池の各委員
出席監事 春本監事、柴田監事
陪席者 元平管理部長、蜂谷企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 学長選考・監察会議（令和7年度第2回）議事要旨（案）
資料2 学長候補者による演説会の実施方法について
参考資料1 学長候補者の選考の実施に関する申合せ
参考資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考規程
参考資料3 学長候補者選考の流れ

5 議 事

（1）前回議事要旨の確認について

後藤議長から、資料1の学長選考・監察会議（令和7年度第2回）の議事要旨（案）について、委員による確認が済んでいることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

（2）学長候補者による演説会の実施方法について

事務局から、資料2に基づき、学長候補者による演説会の実施方法について説明があり、審議の結果、（案1）の「演説及び事前質問への回答を行った後、質疑応答を実施する」形を基本とし、以下の事項を踏まえた上で実施することとした。

- ・質疑応答は、全学長候補者の「演説及び事前質問への回答」が行われた後、候補者全員が同席した形で実施する。
- ・学長候補者も他の学長候補者に対して質問することができる。また、学長候補者同士による討論に近い展開となることも想定する。
- ・質問の内容は、「演説及び事前質問への回答」に係る事項の確認を目的とするものに限定する。
- ・質疑応答の進行は学長選考・監察会議で行うこととし、具体的に誰が行うかについては改めて検討する。

●主な意見

【事前質問について】

- ・事前質問とは、候補者の演説内容を踏まえた上で行う質問なのか、それとも演説内容を全く知らずに行うのか。
→学長候補者の抱負等の資料を事前に公表しており、それを踏まえて事前質問が提出される。

【候補者による討論について】

- ・候補者による討論は、候補者全員が参加して行うのか。
→学長選考・監察会議が設定したテーマについて、候補者全員が同席した状態で意見を述べる形式を想定している。
- ・候補者による討論は、運営上の難易度が高く、また候補者が複数の場合、時間も長時間になるため、現実的ではない。
- ・候補者同士による質問や意見交換は、学長選考・監察会議委員の視点とは異なる、大学経営を担おうとする立場ならではの視点で行うことができるため、そのような場を設けてもよいと考える。
- ・候補者の臨機応変な対応を見ることは大事だが、討論の進行を行う者の力量が大きく影響する。
- ・討論という形式にこだわらず、同一の質問を複数候補者に投げかけて回答させる形式であれば、討論に近い効果が得られるのではないか。
- ・特定のテーマで質問を行うという形式であったとしても、候補者が1人の場合は、事前質問だけでよいのではないか。

【質疑応答について】

- ・受け答えの巧拙のみを評価することが本質ではなく、内容を重視すべきである。
- ・学長は大学経営の中心人物であるため、どのような言葉でどのように答えるのかという対応力は重要である。
- ・質問内容は、事前質問で不足した点を補足する目的に限定すべきである。
- ・質問の質によって候補者の印象が左右されることが懸念されるため、公平性を確保する工夫が必要である。
- ・全候補者が「演説と事前質問への回答」を行った後に、全候補者に対して一斉に質疑応答を行った場合、特定の候補者にのみ質問が偏るのではないか。
- ・候補者ごとに、「演説と事前質問への回答」の後に質疑応答を行う形式であれば、特定の候補者への質問の偏りを防ぎやすいのではないか。
- ・全候補者が同席した状態で同一の質問に答えてもらう形式であれば、比較がしやすく判断材料として有効ではないか。
- ・候補者同士で質疑応答ができるようにしたほうがよい。
- ・学長選考は学長選考・監察会議が行うものなので、人となりを確認したいのであれば、学長選考・監察会議において質疑応答を行うべきである。

【演説会全般について】

- ・学長を選考する責任は学長選考・監察会議にあるため、演説会はあくまで候補者及び意向投票資格者の意見を参考として聞く場である。
- ・意向投票資格者が候補者の考えや対応を見る機会として、演説会の充実は一定の意義がある。

以上